

全国月間火山概況

口永良部島では、GPS による地殻変動観測で、新岳火口浅部の膨張を示す変化が続くなど、さらに火山活動が高まったと判断し、27 日に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを 2（火口周辺規制）から 3（入山規制）に引き上げました。

雌阿寒岳では、火山性地震の発生回数が減少したことなどから、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生する可能性が低くなったと判断し、17 日に噴火予報（平常）を発表し、火口周辺警報（火口周辺危険）を解除しました。

霧島山（新燃岳）では、火山性地震の発生回数が減少したことなどから、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生する可能性が低くなったと判断し、29 日に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを 2（火口周辺規制）から 1（平常）に引き下げました。

その他の火山で予報警報事項に変更はありませんでした。

11 月 7 日現在の各火山の噴火警報及び噴火予報等の発表状況は表 1 のとおりです。

表 1 11 月 7 日現在の噴火警報及び噴火予報等の発表状況

警報・予報	噴火警戒レベル 及びキーワード	該当火山
火口周辺警報	レベル 3（入山規制）	口永良部島
	レベル 2（火口周辺規制）	浅間山、三宅島、桜島、薩摩硫黄島、諏訪之瀬島
	火口周辺危険	硫黄島
噴火警報及び火山現象に関する海上警報	周辺海域警戒	福徳岡ノ場
噴火予報	レベル 1（平常）	樽前山、有珠山、北海道駒ヶ岳、岩手山、吾妻山、草津白根山、御嶽山、富士山、伊豆大島、九重山、阿蘇山、雲仙岳、霧島山（新燃岳）、霧島山（御鉢）
	平常	知床硫黄山、羅臼岳、摩周、アトサヌブリ、雌阿寒岳、丸山、大雪山、十勝岳、利尻山、恵庭岳、倶多楽、羊蹄山、ニセコ、恵山、渡島大島、恐山、岩木山、八甲田山、十和田、秋田焼山、八幡平、秋田駒ヶ岳、鳥海山、栗駒山、鳴子、肘折、蔵王山、安達太良山、磐梯山、沼沢、燧ヶ岳、那須岳、高原山、日光白根山、赤城山、榛名山、横岳、新潟焼山、妙高山、弥陀ヶ原、焼岳、アカシタ山、乗鞍岳、白山、箱根山、伊豆東部火山群、利島、新島、神津島、御蔵島、八丈島、青ヶ島、ペヨネース列岩、須美寿島、伊豆鳥島、嬬婦岩、西之島、海形海山、海德海山、噴火浅根、北福徳堆、南日吉海山、日光海山、三瓶山、阿武火山群、鶴見岳・伽藍岳、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島、硫黄島、西表島北北東海底火山、茂世路岳、散布山、指臼岳、小田萌山、択捉焼山、択捉阿登佐岳、ペルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山

（火山の順は活火山総覧（第 3 版）による）



図 1 噴火警報発表中の火山

【各火山の活動状況及び予報警報事項】

全国の主な火山の活動状況及び予報警報事項は以下のとおりです。その他の火山については、火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

雌阿寒岳

【噴火予報（平常）】 10月17日に火口周辺警報（火口周辺危険）から引下げ

9月27日～30日に体に感じない程度の小さな火山性地震が日回数100回を超えて多発し、9月29日には振幅のやや大きな火山性微動も発生しましたが、10月上・中旬は地震活動は概ね低調に推移した。火山性微動は9月30日以降、観測されていません。噴煙活動や地殻変動の状況にも特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生する可能性はなくなったため、10月17日に噴火予報（平常）を発表し、火口周辺警報（火口周辺危険）を解除しました。

その後、火山性地震は10月19日以降やや多い状態で推移していますが、その他の観測データには特段の変化はみられていません。

なお、10月14日～16日に実施した現地調査では、ポンマチネシリ火口内の南東側にある複数の噴気孔等で温度上昇や噴気の勢いが若干強まっているのが認められており、火口内や近傍では火山ガスや火山灰噴出に対する警戒が必要です。

浅間山

【火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）】

今期間、噴火は発生しませんでした。

山頂火口の噴煙量はやや多い状態が続き、噴煙高度は火口縁上概ね200mで推移した。また、夜間には高感度カメラにより微弱な火映が時々観測されています。

火山性地震及び火山性微動はやや多い状態が続いています。

2日に利根川水系砂防事務所の協力により行った上空からの観測では、火口底の地表面温度分布等に特段の変化はありませんでした。

10月2日、16日及び28日に行った現地調査では、二酸化硫黄の放出量は一日あたり1,200～2,900トンと前回（9月11日、一日あたり800～1,300トン）と同様、依然として多い状態が続いています。浅間山では、依然として火山活動が高まった状態が続いており、山頂火口から概ね2kmの範囲に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、これらの地域では大きな噴石に警戒が必要です。風下側では、降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意が必要です。また、火山ガス放出量の多い状態が続いており、風下側にあたる登山道等では、火山ガスに注意が必要です。

三宅島 【火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)】

噴煙高度は火口縁上概ね200mで推移しました。

10月2日及び16日に行った現地調査では、二酸化硫黄の放出量は一日あたり1,100～2,100トンで、前回（2008年9月10日、一日あたり1,300～1,700トン）と同様、依然として多量の火山ガス放出が続いています。また、三宅島の火山ガス濃度観測によると、山麓でたびたび高濃度の二酸化硫黄が観測されています。

山頂火口直下を震源とする火山性地震は増減を繰り返しながらやや多い状態が続いています。火山性微動も時々発生していますが、振幅はいずれも小さく、その他のデータに変化はみられません。

地磁気連続観測では、火山体内部の熱の状況に大きな変化はなかった。

GPS連続観測では、山体浅部の収縮がわずかながら継続しています。

三宅島では、山頂火口周辺（雄山環状線内）に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、山頂火口周辺では噴火に対する警戒が必要です。また、火山ガス予報で予想される地域では火山ガスに対する警戒が必要です。降雨時には泥流にも注意が必要です。

硫黄島 【火口周辺警報(火口周辺危険)】

独立行政法人防災科学技術研究所及び国土地理院の観測によると、地震活動は落ち着いた状態で経過していますが、2006年8月以来みられている島全体が隆起する地殻変動は継続しています。

硫黄島では、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、従来から小規模な噴火がみられていた領域では警戒が必要です。

福德岡ノ場 [噴火警報(周辺海域警戒) 及び火山現象に関する海上警報]

今期間観測は行われませんでした。なお、これまでの海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部及び海上自衛隊による上空からの観測では、福德岡ノ場付近の海面に、火山活動によるとみられる変色水が確認されています。

福德岡ノ場では小規模な海底噴火が発生すると予想されますので、周辺海域では警戒が必要です。

阿蘇山 [噴火予報(噴火警戒レベル1、平常)]

中岳第一火口の湯だまりの表面温度や湯量に大きな変化はありませんでした。

8日に陸上自衛隊第8師団第8飛行隊の協力により行った上空からの観測でも、中岳第一火口周辺に高温域の拡大等は認められませんでした。

10月に5回行った現地調査では、二酸化硫黄の放出量は一日あたり200~800トンで、前回(2008年9月、一日あたり300~800トン)と同様、少ない状態で経過しました。

地磁気観測による火山体内部の熱の状況では、2006年夏頃から、中岳第一火口北側に近い観測点で全磁力のわずかな増加がみられます。これは、中岳第一火口地下の温度上昇による可能性があります。

地震活動は低調な状態で、孤立型微動は1日あたり100回未満で推移するなど、噴煙活動や地殻変動に特段の変化はありませんでした。

阿蘇山では、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候はみられません。ただし、火口内では噴気や火山ガスの噴出がみられることから、火口内及びその周辺では火山灰噴出等に警戒が必要です。また、火口周辺では火山ガスに対する注意が必要です。

霧島山(新燃岳)

[噴火予報(噴火警戒レベル1、平常)] 10月29日に噴火警戒レベル2(火口周辺規制)から引下げ

8月22日の噴火発生以降、噴火は発生していません。火山性地震や火山性微動の発生もなくなり、噴煙量も次第に減少し、GPS連続観測による地殻変動もみられません。このため、火口周辺に影響を及ぼす噴火の可能性は低くなったと考え、10月29日に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを2(火口周辺規制)から1(平常)に引き下げました。

10月28日に行った現地調査では、火口内の南側の高温域に特段の変化はありませんでした。

火口内及び西側斜面では引き続き噴気がみられており、火口内に影響する程度の噴出現象が発生する可能性があるため、火山灰の噴出等に警戒が必要です。

桜島

[火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

南岳山頂火口では、10月3日に1回噴火が発生し、長期的な噴火活動が継続しています。昭和火口ではごく小規模な噴火が時々発生しました。10月27日以降、夜間には時々、高感度カメラで捉えられる程度の微弱な火映が観測されています。

地震活動は低調な状態で経過しました。桜島の直下にマグマが新たに移動、上昇したことを示す地殻変動は観測されていません。

国土地理院によるGPS連続観測では、始良カルデラ(鹿児島湾奥部)の地下深部へのマグマ注入によると考えられる長期的な膨張が継続しています。

今後、南岳山頂火口及び昭和火口から概ね1kmに影響を及ぼす噴火が予想されるため、これらの火口周辺では大きな噴石に警戒が必要です。また、風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石(火山れき)に、降雨時には泥流や土石流に注意が必要です。

薩摩硫黄島 [火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや活発で、噴煙の高さは火口縁上概ね300mで推移しています。

火山性地震はやや多い状態が続いています。

薩摩硫黄島では、硫黄岳山頂火口から概ね1kmの範囲に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるため、火口周辺では警戒が必要です。

口永良部島

[火口周辺警報(噴火警戒レベル3、入山規制)] 10月27日に噴火警戒レベル2(火口周辺規制)から引上げ

9月以降、GPSによる地殻変動観測で新岳火口浅部の膨張を示す変化が続いています。また噴気や火山ガスの放出量も増加するなど、火山活動はさらに高まっていると考えられるため、10月27日に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを2(火口周辺規制)から3(入山規制)に引き上げました。

10月25日に第十管区海上保安本部の協力により行った上空からの観測では、新岳火口内の南側火

口壁からの噴気は、10月1日に行った調査時（九州地方整備局協力）よりも増加しており、噴出口付近に広く硫黄と思われる黄色の昇華物が付着しているのを確認しました。

今後、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があるため、火口から概ね2kmの範囲では弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。また、風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石にも注意が必要です。

諏訪之瀬島 [火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

御岳火口では、小規模な噴火が時々発生しました。噴煙の最高高度は10月23日の火口縁上2,000mでした。諏訪之瀬島では長期的な噴火活動を繰り返しています。

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いています。

10月17日から10月23日に行った現地調査及び10月21日に鹿児島県部の協力により行った上空からの観測では、山体の北側や旧火口（文化火口）などに新たな熱異常域はみられませんでした。

諏訪之瀬島では、今後も御岳火口から約1kmの範囲に大きな噴石を飛散させる噴火が発生すると予想されるので、これらの地域では警戒が必要です。

（火山の順は活火山総覧（第3版）による）

資料1 全国の火山の噴火警報及び噴火予報の発表状況のまとめ（平成20年11月7日現在）

（1）主な活火山

	火山名	噴火警報及び噴火予報の発表状況 （11月7日現在）	噴火警報及び噴火予報の発表履歴
北海道地方	雌阿寒岳	火口周辺警報（火口周辺危険）	2007年12月1日 噴火予報（平常） 2008年9月29日 火口周辺警報（火口周辺危険） 2008年10月17日 噴火予報（平常）
	十勝岳	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	樽前山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常）
	倶多楽	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	有珠山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常） 2008年6月9日 噴火予報（レベル1、平常）
	北海道駒ヶ岳	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常）
	恵山	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
東北地方	岩木山	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	岩手山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常）
	秋田駒ヶ岳	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	栗駒山	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	吾妻山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常）
	安達太良山	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	磐梯山	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
関東・中部地方・伊豆・小笠原諸島	那須岳	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	草津白根山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常）
	浅間山	火口周辺警報 （レベル2、火口周辺規制）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常） 2008年8月8日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）
	新潟焼山	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	御嶽山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常） 2008年3月31日 噴火予報（レベル1、平常）
	白山	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	富士山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常）
	箱根山	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	伊豆東部火山群	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	伊豆大島	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常）
	三宅島	火口周辺警報 （レベル2、火口周辺規制）	2007年12月1日 火口周辺警報（火口周辺危険） 2008年3月31日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）
	八丈島	噴火予報（平常）	2007年12月1日 噴火予報（平常）
	硫黄島	火口周辺警報（火口周辺危険）	2007年12月1日 火口周辺警報（火口周辺危険）
福徳岡ノ場	噴火警報（周辺海域危険）	2007年12月1日 噴火警報（周辺海域警戒）	
九州地方・南西諸島	九重山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常）
	阿蘇山	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常）
	雲仙岳	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常）
	霧島山 （新燃岳）	火口周辺警報 （レベル2、火口周辺規制）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常） 2008年8月22日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2008年10月29日 噴火予報（レベル1、平常）
	霧島山（御鉢）	噴火予報（レベル1、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル1、平常）
	桜島	火口周辺警報 （レベル2、火口周辺規制）	2007年12月1日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2008年2月3日 火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2008年2月20日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2008年4月8日 火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2008年7月14日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2008年7月28日 火口周辺警報（レベル3、入山規制） 2008年8月28日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）
	薩摩硫黄島	火口周辺警報 （レベル2、火口周辺規制）	2007年12月1日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）
	口永良部島	火口周辺警報 （レベル2、火口周辺規制）	2007年12月1日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2008年1月25日 噴火予報（レベル1、平常） 2008年9月4日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制） 2008年10月27日 火口周辺警報（レベル3、入山規制）
	諏訪之瀬島	火口周辺警報 （レベル2、火口周辺規制）	2007年12月1日 火口周辺警報（レベル2、火口周辺規制）

注) 噴火警報及び噴火予報の発表履歴欄には、平成 19 年 12 月 1 日の噴火警報及び噴火予報の発表と噴火警戒レベルの運用開始からの経過を示す。
この表では、主な活火山として、警報を発表している、または連続的に監視を行っている火山を示している。また、ここで示すレベルは噴火警戒レベルである。

(2) その他の活火山

以下の活火山では平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報 (平常) を発表し、その後、火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はありません。

	火 山 名
北海道地方	知床硫黄山、羅臼岳、摩周、アトサヌプリ、丸山、大雪山、利尻山、恵庭岳、羊蹄山、ニセコ、渡島大島、茂世路岳、散布山、指臼岳、小田萌山、択捉焼山、択捉阿登佐岳、ベルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山
東北地方	恐山、八甲田山、十和田、秋田焼山、八幡平、鳥海山、鳴子、肘折、蔵王山、沼沢、燧ヶ岳
関東・中部地方 及び伊豆・小笠原諸島	高原山、日光白根山、赤城山、榛名山、横岳、妙高山、弥陀ヶ原、焼岳、アカンダナ山、乗鞍岳、利島、新島、神津島、御蔵島、青ヶ島、ペヨネース列岩、須美寿島、伊豆鳥島、嬬婦岩、西之島、海形海山、海德海山、噴火浅根、北福德堆、南日吉海山、日光海山
中国・九州地方 及び南西諸島	三瓶山、阿武火山群、鶴見岳・伽藍岳、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島、硫黄島、西表島北北東海底火山